

真の環境経営(案)

◆真の環境経営とは、戦略的に、企業活動から生じる地球環境への外部影響(環境負荷)を最小限にし、かつ企業価値の向上に結び付けることを目的とした経営をいう。

◆真の環境経営度合いを測るには、①環境負荷の定量情報、②企業の環境対応力により企業価値への影響を評価することが求められる。

◆環境負荷の定量情報は、企業行動から生じる外部影響の絶対量(総投入量・総排出量、インプットとアウトプットでの質的变化、汚染状況などを表わす数値など)、原単位当たり環境負荷量など効率性等を表す環境負荷情報に基づく指標により評価する。これらの定量情報による管理は、範囲を明確にしたうえ、ライフ・サイクル・アセスメント(LCA)、サプライチェーンマネジメント(SCM)などのより広い範囲で、重点的事項を測定・評価する。

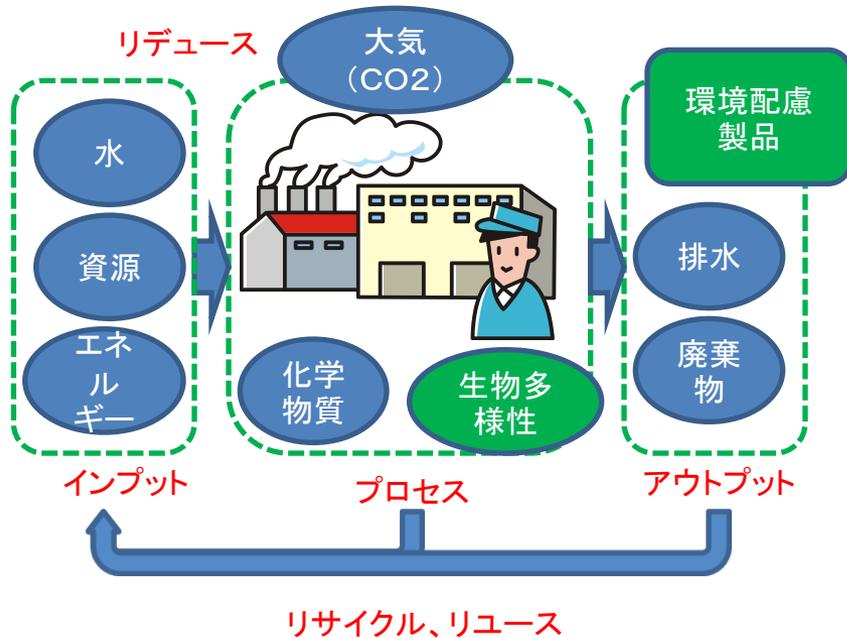
◆環境対応力は、環境経営の取組により、企業がLCA等での外部影響を如何に軽減し、自社の価値向上に繋げられるかの能力である。環境対応力には、将来キャッシュインをもたらすチャンス獲得能力と、キャッシュインには直接つながらないが従業員のモチベーションアップ・一体感の創出・緊急時への対応・法令順守など間接的に企業価値向上が図られるリスク対応能力があり、これらがどう企業価値の向上につながるかを評価する。

◆具体的な実施項目は、個々の企業において経営上の重要性の判断により決定される。

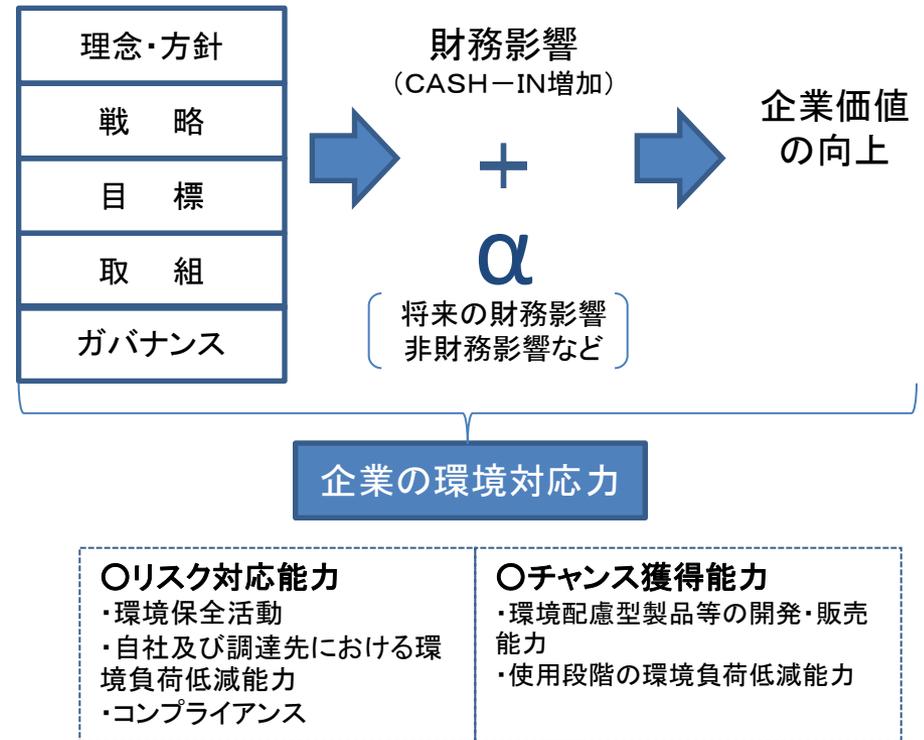
真の環境経営(案)

○真の環境経営度合い(案)

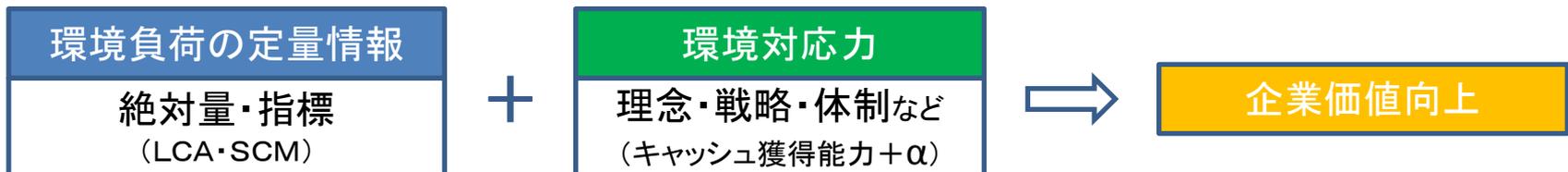
環境負荷の定量情報に基づく評価



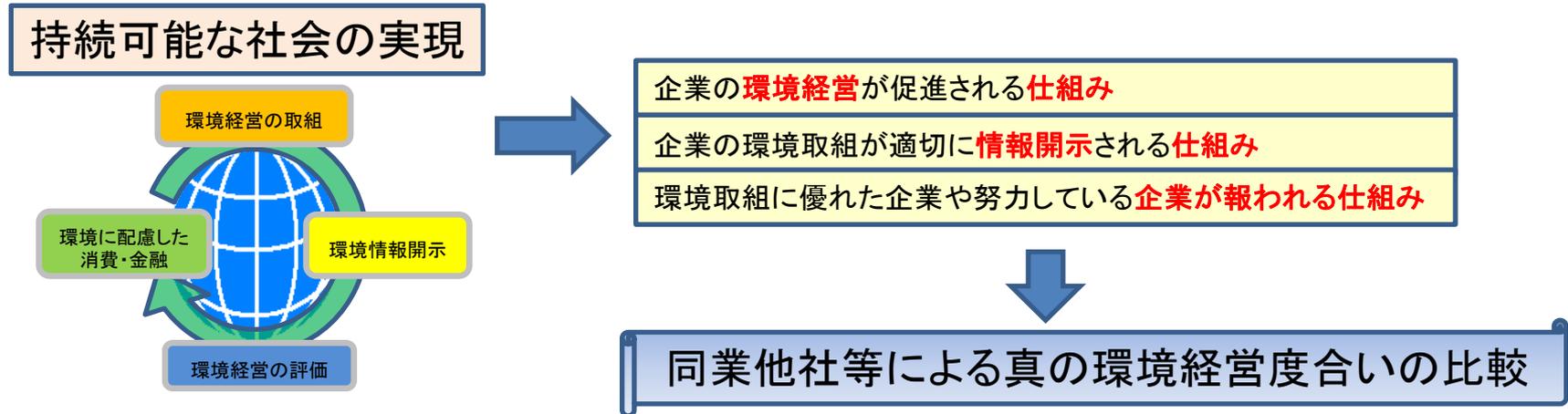
環境対応力に基づく評価



※マテリアルバランス管理 ⇒ LCAなどによる環境負荷の絶対量、及び効率性を示す指標(原単位当たり環境負荷)などによる管理



真の環境経営に係る論点



◆真の環境経営を実行していくために、企業は何を、どのように管理していくのか？
また、どのように比較し、自社取組を評価するのか？

- 環境負荷の定量情報による評価
- セクター別の重点的な環境マター
- 比較可能部分と比較不能部分の棲み分け
- 水質、大気、GHG、エネルギー、天然資源、廃棄物、3R(リデュース・リサイクル・リユース)、土地利用、生物多様性、再生エネルギーなどの絶対量による比較
- 成果と努力を示す指標による比較
- 最小限の環境負荷との比較(ベンチマーク、ベストプラクティス、理論値など)

- 環境対応力による評価
- 全体における環境の位置づけ(方針、戦略、活動、財務数値など)
- チャンス獲得に向けた取組(個々の取組の評価、優れた研究開発、環境配慮製品の拡販など)
- リスクへの対応(ガバナンス、環境品質管理体制、業績評価制度など)

